

# バロー 70~80店改装へ

## 来月から3年間 生鮮強化の一環

バローホールディングス(HD)の中核子会社バローは、スーパーマーケットのバローの既存店241店舗(2月29日現在)のうち、4月から3年間で70~80店舗を改装する。店舗を改装して鮮魚や野菜、精肉といった生鮮部門を強化し、売り上げに占める同部門の構成比を現状の約40%から50%まで引き上げる目標を掲げる。

(松浦健司)



魚がそのままの形で並び鮮魚売り場  
岐阜市西部寺屋敷スーパーバロー  
ケットバロー西部南店

バローが推し進める、デステイネーション・ストア(来店動機となる商品・カテゴリーを持つ店)への転換に向けた戦略で、新規開店から5年を目安に店舗の見直しを検討。これまでに約70店舗を改装し、生鮮売り場の競争力を高めてきた。

改装した店舗の鮮魚売り場では、魚をそのまま1本の形で陳列する独立スペースを設ける。従業員は客に対面に対応し、客が要望すれば、バックヤードでさばいたり、量り売りしたりする。「頭から尻尾まで見える魚屋を目指しています」をキャッチフレーズに、鮮度を前面に押し出してライバル店と差別化している。

バローの森克幸社長は「新規出店と改装の両輪で進めていきたい。改装はしっかりと進めて、お客さんに恩返ししていく」と語った。

バローHDが昨年11月に発表した2023年9月中

間連結決算は、スーパーマーケット事業の売上高に相当する営業収益は、前年同期比7.3%増の2215億2300万円、営業利益は54.9%増の81億3400万円と増収増益だった。